

議 事 概 要

会議名	平成26年度 第4回 海津市地域公共交通会議
日時	平成26年8月18日（月） 13:30～15:30
場所	海津総合福祉会館ひまわり2階 研修室
出席者	委員20名 事務局6名
報 告	1 第3回会議にかかる報告について (1) コミュニティバスと鉄道駅との接続状況について 資料1-1 (2) 養老鉄道の概要等について 資料1-2 (3) その他
議 題	2 海津市公共交通計画等策定調査業務委託業者選定結果について 資料2 3 養老鉄道利用者実態調査について 資料3-1 4 海津市公共交通計画（素案）について 資料3-2
議事概要	報告事項 報告1 第3回会議に係る報告について (1) コミュニティバスと鉄道駅との接続状況について ○事務局からの説明（資料1-1に基づき説明） ・コミュニティバスと鉄道駅との接続について ○委員からの質問・回答、意見等 ・待ち時間について、全く乗り継ぎを考慮しないとすると、40分毎に電車が来ているのであれば、待ち時間は平均で20分程度になるかと思う。そうであるとすると、待ち時間が20分以下であれば努力していると言えることになろう。しかし、パッと見たところ、巧く接続出来ていないように感じられる。今後改善していく際に、そういった点も見ながら改良して欲しい。 1点確認したい。電車とバスの間隔が現状異なるので、一致しないことになっているのは分かるのだが、これはバスについて他の利用があるためこの間隔でないとならないのか、それとも利用者視点に立った変更の余地があり、今後の議論によって出来る限りの対応できるのかどうか。 - もう1点、今回は時刻表で確認しているが、実際は混雑して乗りきれないというような状況があるならば、朝と夕方のダイヤを変える必要もあるかと思うが、そういった状況があるのか無いのか、分かれば教えて欲しい。 →現在のコミュニティバスについて、朝の時間帯に養老鉄道から海津明誠高校へという方に関しては、駒野駅に7時50分に電車が着き、バスが7時55分または8時2分ということで、巧く動いている。しかし、他の所については、非常に問題があり、見直しが必要と感じています。 - もう1点、渋滞等のダイヤについて、海津羽島線の羽島行きについては、信号等の関係で遅れる可能性もあり、その点を考慮し余裕を持ったダイヤを考える必要があると考えています。次回の再編に向け検討すべき事項と理解しています。 ・遅れの状況についての調査はしていないのか。 →調査ということではしていませんが、運行会社から時間として厳しい旨を聞いています。 ・岐阜羽島での新幹線の乗り継ぎについて、正確な時間は分からないが、5分以内では上り下りもあり厳しいと思う。高校生だけでは無いと思うので、お客さんのことを考えて、10分程度は必要かと思う。 (2) 養老鉄道の概要等について

○事務局からの説明（資料 1-2 に基づき説明）

- ・養老線の概要について

○委員からの質問・回答、意見等

- ・養老鉄道の現況については、輸送人員の減少が、最大の問題であると認識している。ご協力いただきながら、様々な取り組みを行なっているが、引き続きご協力をお願いしたい。

- ・今、様々な取り組みと言われたが、目に見える形でどのようなことを取り組まれているのか。

もう 1 点、本体の近畿鉄道から補助金をいただいているかと思うが、撤退したいような意向があるということも聞こえてくる。その場合、市としてはどのような方向付けで行くのか確認したい。

→養老鉄道としてお答えする。海津市、また支援団体と一緒に、沿線ハイキング等、JR とも協力しながらのイベントを実施、開業 100 年記念乗車券の発売等実施している。

また、数年前から、電車の運転体験を実施している。参加料は一人 1 万円としているが、非常に好評で、年 3 回、計 6 回開催している。

それ以外にも、桑名市での花火大会に合わせた記念割引乗車券の発売等、地味ながらも取り組んでいる。

近鉄として、撤退ということについては、一切発表していない。

- ・親会社の近鉄からどれ位の補助があるのか。

→現在、6 億円強となっている。

- ・その 6 億円が無くなった場合、沿線の市町で負担して継続するのか、行政としてはどのように考えているのか。

→現状では、軌道敷きは近鉄が所有していて、車両は養老鉄道が所有し、運行も養老鉄道が行なっているという事業形態である。近鉄の方から、そういう事業形態について改めさせてもらえないかという申し入れは受けています。

26 年度から協議に入り、将来的にどうするか、全体の赤字をどう負担するか、ベストな経営を検討しているところであります。来年度も継続して契約、運行してもらえることにはなっています。

- ・近鉄として、撤退という話はないということか。

→あるか無いか断言はできないが、撤退するというような話はございません。

- ・撤退が決まった段階で話は来るのであろう。決まってからでは遅い。しかし、撤退ということがあった時に、市町としてどのような対策をするのか、ということを知りたい。完全に、市町としても撤退するのか、買いとってやっていくのか、そういうことも考えておく方がよい。軌道を買うのか、バス等で代替した方がよいのか、そういうことも考えておくべきではないか。

→現状、600 万人の利用者がいます。それだけの人数をバスで代替することは物理的に難しいとは思いますが。委員がこだわっている撤退の有無については、この場で議論しても致し方ないことではないかと思えます。個人的な意見であるが、駅舎の改修や枕木の交換等の工事をする等、設備投資をされており、少なくともすぐに撤退ということは無いと思えます。

- ・もう 1 点だけ宜しいか。無人駅が多々あるが、その管理は養老鉄道がやるのが当然ではないか。ボランティアでやるのは、補助金ももらっておきながら横着すぎるのではないか。

→当社の駅は 27 駅あるが、その内、無人駅が 19 駅、係員がいる駅が 8 駅しかない状況である。その中で、沿線市町からたくさんの補助をいただくとともに、ボランティアの皆さまにも無人駅清掃等の協力をいただいている点、大変感謝申し上げます。当社の人員についても、運転、駅業務、ぎりぎりの人員でやっているところであり、なかなか全駅にまわれない状況である。ボランティアの皆さまにご協力をいただいていること、感謝を申し上げますとともに、何とぞご理解、引き続きのご協力をお願いしたい。

- ・資料の5ページにある乗降客数について、ある1日のデータを出すのであれば、曜日と天気を入れて欲しい。曜日にもよるし、雨にも影響されると思うのでお願いしたい。

もう1点、3ページの資料について、学童が減っていくのかと思ったら、通学定期は減っていない。通勤定期が減っていることが、全体の減少につながっていると認識した。養老鉄道も様々な施策をやっているかと思うし、それは継続してやっていく必要があるかと思うが、交通マネジメントとして、工場等に働きかけ、自家用車から通勤定期にかえてもらうような運動が必要ではないか。特に、資料を見ると、桑名市と大垣市が減っているようで、これは通勤客が減っているのかと思うので、対策が必要だと思う。この数値だけでは、判断があっているか分からないが、そういったマネジメントも必要かと思う。

→交通マネジメントについて、市の方として養老鉄道に関し、今、例としてあげられた工場等への働きかけについては、何もしてない状況です。公共交通は、地域の方と一緒に守っていくべきものだと思います。今回の公共交通会議で計画を作っていくわけですが、養老鉄道も含めて考えていくことが必要だと思いますので、宜しくお願いします。

- ・駅周辺に駐車場を整備すること等出来るのか。
- ・当然、そういう問題もあるかとは思いますが、出来る所から少しずつでもやっていくことが必要ではないか。

(3) その他

○委員からの質問・回答等

- ・駐車場が利用できないというクレームがあったというような話を聞いている。その後、その対応をどうすることにしたのか、ここで報告して欲しい。

→指摘いただいたのは、美濃津屋において、「毎日利用するのではなく、たまに大垣市内に行こうとする時に駐車場を時間貸しで使わせて欲しい。現在養老鉄道にはそのような制度がないので考えて欲しい。」ということであった。

実施にあたり、時間貸し、一般的には一時駐車ということになるが、街中のコインパーキング業者に委託した場合にどうなるか等を検討し、業者に声掛けをした。しかし、無人コインパーキング業者においては、都心部では事業が成り立つが、養老鉄道沿線では難しいということで、この案については断念をした。そうなった時に、当社でやれるのか、周辺の皆さまとの協力でやれる方法があるのか、1つひとつ案を出し、問題点を潰していく作業を進めているところである。今暫く回答の猶予をいただきたい。早々に回答を出したいと考えている。

報告2 海津市公共交通計画等策定調査業務委託業者選定結果について

○事務局からの説明（資料2に基づき説明）

- ・海津市公共交通計画等策定調査業務委託業者選定結果について

質疑等なし

議題

議題1 養老鉄道利用者実態調査について

○事務局からの説明（資料3-1に基づき説明）

- ・養老鉄道利用者実態調査について

○委員からの質問・回答、意見等

- ・アンケートについて、どこか変わる予定なのか。

→アンケートについては、海津市民が養老鉄道に乗った時を前提としています。市外の方が海津市内の駅を訪れた場合、回答し難い点があるかと思います。設問に手直しを加えたいと、検討している旨はご理解いただきたい。

- ・他の地区の人が使うのか。

→平田地区の大垣方面の高校への通学者は、名阪近鉄バスが出ていますが、養老鉄道の方が安いので利用しているという話を聞いています。

- ・項目については、今回の目的からこれ位かと思う。1つ追加するとすれば、自宅から駅、目的地までの所要時間を聞くと良いかと思う。勢力圏と言うが、どの程度の範囲から来ているかが分かるであろう。

1点だけ気を付けなければならないのは、実施目的で“コミュニティバスルート、運行ダイヤに反映”とあるが、今回のアンケートは、実際に養老鉄道を使われている方を対象にしたものになるので、今のバスや、自転車等でうまく来られている人だけの意向となる。新しい需要の獲得にはならないので、これまで実施してきた全市民アンケートの結果も照らし合わせて分析することを留意していただきたい。

- ・アンケートを乗降別に把握するということが、問5について、到着した方にとって行先は海津市になるのではないか。選択肢に海津市をいれても良いのではないか。統計をとる時に、行きと帰り、行き先等々が混乱をしないよう、巧く作り直して欲しいと思う。

→アンケートについては、これから乗る方、降りた方、別々になると思いますので、その辺の設問を振り分けた方が良いのではないかと、その辺も考慮し、分かりやすい形で実施したい。

- ・資料3-1の調査項目、改善要望の欄に“待合空間の整備”とあり、分析方法として、駅とやや離れているバス停云々とあるが、駅と離れているバス停における待合空間整備について聞く意図はどういうことか。

また、属性で学生、自営業、会社員等の職業は聞かないで良いのか。

→1点目については、石津駅において、通り沿いのバス停から駅まで離れている状況があります。問7の7番目に“バスの待合等を作って欲しい”という選択肢を入れているが、こうした要望の把握をおこないたいという趣旨です。

もう1点、職業について聞いてはどうかとのご提案ですが、基本的には10歳毎の年齢しか設けていないが、学生か会社員かの確認が出来た方が統計分析上分かりやすい部分もあるかと思うので検討します。

- ・このアンケートは、養老鉄道の利用者のみが対象になるかと思うが、天候に左右されないか。雨の日は家の人に送迎してもらい、近くのバス停を使う等、普段の利用と異なることもある。平日と休日の2日間とあるが、天候で微妙に変わってくることがないか、懸念するがいかか。

→ご指摘のとおり、コミュニティバスは、雨天時、利用が増える傾向もあります。養老鉄道においても、そういう状況があるか分からないが、実施要領については、鉄道事業者とも状況を確認し、考慮したいと思います。

○養老鉄道利用者実態調査について、指摘いただいたとおり改良の余地がある。事務局で、より分かりやすい、より成果の上がるアンケートに修正していただき実施するということで、承認。

議題2 海津市公共交通計画（素案）について

○事務局からの説明（資料3-2に基づき説明）

- ・海津市公共交通計画（素案）について

○委員からの質問・回答、意見等

- ・これからたたき台、素案を協議していただき、そして策定するというスケジュールが大枠であれば説明して欲しい。

→今回の会議では、大枠となる基本方針をまず出しました。10から11頁に公共交通ネットワークのイメージ図をたたき台として示しています。本日は基本的な方針を了承いただければ、今後コミュニティバスのルートやダイヤ、支線の部分のデマンドの方法等を検討し、次回の第5回にお示しをしたい。そこで了承いただければ、地元の意見交換会を実施しながら、年度末に最終的な運行計画を決定する方向にしたいと考えています。

- ・基本的なたたき台であるから、これから検討いただければ良いが、9頁のサービス水準案においてタクシーは、“24時間随時の運行”とある。タクシーにだけこれを担わせるのは酷なのではないか。現在は集中配車で、営業所もないので、無理かと思う。再検討いただきたい。

もう1点は1頁の計画期間について、27年度からとあるが、上位計画である市の基本構想が2016年までとなっている。計画策定から1年で、上位計画の方針が変わってしまうことにならないか。方向性は継続させるのか。

→タクシーについては、基本的にバス等が使えない方もおられるので、位置づけとしては必要と考え書かせていただきました。内容についてはタクシー会社ともよく打合せたい。

2点目の上位計画との関係について、市の総合開発基本構想については、平成19～28年の計画期間となっている。現時点ではこの計画が上位計画となるので、踏まえたいと考えています。

- ・1点目は7頁、名阪近鉄バスの利用者が70人というのは、1日当たりか。

2点目は11頁で、たたき台ということで、今後詳細に書かれていくことになるが、現行で今尾と海津庁舎は名阪近鉄バスとコミュニティバスがかぶっている。これは時間帯の住み分けをしていくという意図か。

もう1点は、デマンドで行くという方向が醸し出されており、また最近の新聞報道でも国交省がデマンドを推進しているという記事も出ていた。しかしながら、現場を預かり、各市の取り組みを見ている立場からすると、必ずしもデマンドの方が安くあがるとは限らないという点はお伝えしておきたい。事例としては、路線バスよりデマンドバスにした方が、市役所の補助金が増えた事例もある。色々な事例、調査を踏まえながら、委員の皆さまには協議いただきたい。

→1点目の乗降客数については、1日あたりということであり、単位が抜けています。

2点目の11頁、イメージ図で路線のかぶりがある点について、現時点では重複しています。ご指摘いただいた点も含め、今後詳細につめていく必要があると考えています。

デマンドについては、色々な方法があるかと思います。今のお話を参考にしながら、経費を含め、今後検討していきたいと思います。

- ・私どもは計画策定の事業者委員であるとともに、計画を実行していく当事者でもある。この計画をどのように実行していくかが心配なところでもある。その視点から幾つか申し上げたい。

1点目は、計画期間が、5年ということであるが、事業者としては、日々様々な需要等に対し機敏に対応していく姿勢をとっている。この計画に基づきしっかりとやっていく方向ではあるが、どの程度の拘束、縛りになるのかという点を教えていただきたい。

本計画は海津市が策定し、鉄道等の事業者に要請をしていくというものになるかと思うが、例えば9頁、広域幹線として養老鉄道のサービス水準として“朝から夜間まで1時間に1便以上の運行本数”との記載がある。現時点ではこの水準を保っているが、今後の利用によっては見直しが必要になることも否定できない。ここまでの水準を書き込むことが適切なのか。事業者への要請内容なのか、事業者がやるべきことなのか、誰が何をしなければならないのか、少々分かりづらい。

同様に10頁、“運行本数の維持を目指します”とあるが、これは海津市としての思いなのか、養老鉄道がやるべきこととして書かれているか、分かりづらい。

14頁、各主体の役割という記述もある。安全輸送は本計画の目的であり、その通り

であるが、一方、経営努力は企業として当然のことである一方、本計画に書くべきことなのかどうか、やや疑問があり、ご一考いただきたい。

- ・ 7 頁の基本方針に対する目標、方針①で現状維持の数値目標となっているが、実現できるのか。出来るわけないと思うのだが。6 年後も名阪近鉄バスについて 70 人の需要があるとは、甘い考えだと思う。

11 頁の起点が石津駅になっているが、海津温泉を起点として、幹線だけでまわしてはどうかと思うがいかがか。

→ 7 頁の目標について、現在、例えば大垣市民病院等に、名阪近鉄バスが停車することを知らない方もいます。バスルート等について広報、周知を図れば利用者が増える余地はあると考えます。そういったことを行ないながら維持を目指していきたい。

11 頁の準幹線について、石津駅まで必要かというご意見であるが、現状で石津駅の南、松山から海津温泉への利用者が日に 10 名ほどいる。むしろ石津駅から南の団地まで伸ばした方が良いのではとの考えもある。昨年度に実施したバスの調査結果も踏まえながら検討が必要かと考えています。

- ・ 11 頁のコミュニティバスの赤い線について、今尾から海図温泉方面ばかりなのか、駒野駅の方にいくものも含まれるのか、その点だけ確認したい。

→ 海津羽島線は、羽島から、今尾、海津庁舎、海津温泉というルートであるが、海津庁舎から駒野駅に行くルートはどうするのかというご指摘かと思うが、現時点では決まっていません。昨年の調査等から検討が必要かと思っています。

○ 海津市公共交通計画（素案）について、10 頁、11 頁のイメージについて概ねの了承をいただき、それを踏まえた素案を次回提示し、協議を賜りたいとのスケジュール説明があった。今のご意見も調整したうえで、素案を検討することで了解。

その他

○ 委員からの意見等

- ・ 全体を通して感じたことを述べさせていただく。

アンケート調査については、私もコメントさせていただいたが、皆さまからも良い提案をいただいたと思う。天候の話は、非常に大事なところである。アンケート票の紙面広げても良いかと思う。修正を込みで承認いただいたが、私も事務局と協力し、皆さまの意見が含まれるよう作っていくので、お任せいただきたい。

議題 2 について、事務局が指摘をうけていましたが、赤い線を軸、拠点については、去年調査の動きを反映したものにするべきだと思う。需要があるのでここに線を引く、という説明があった方が、皆さまも納得のいくものになるであろう。たたき台については承認をいただいたが、少し削るべきではとのご指摘もあったので、データ等を照合、確認しながら検討いただくようお願いしたい。

また、ご指摘があったよう、デマンドの事業費は必ずしも安くはないということ、また、既存バスと競合し、既存バスの利用者が減っては元も子もないので留意しなければならない。名阪近鉄とは出来る限りすみ分けるよう留意をお願いしたい。

- ・ 大垣から今尾までの便について、近鉄バスに提案である。そこから先に移動したいが手段の無い方が、私だけではなくいるかと思う。今尾に、タクシー利用の案内やコミュニティバスの案内等があると良い。ご検討いただきたい

○ 事務局から今後のスケジュールについて説明

閉会